

親鸞 シンラン 1173～1262

鎌倉初期の僧。浄土真宗の開祖。別称、範宴(はんねん)・綽空(しゃくくう)・善信。

承安3(1173)年、下級貴族、日野有範の子として生まれる。幼くして両親と死別した親鸞は、養和1(1181)年9歳のときに慈円のもとで出家得度し、20年間比叡山で修行に励むが、悟りを得ることができず下山。その後、京都六角堂にて百日間参籠し、このとき聖徳太子の夢告を得たことが、のちに親鸞をして法然の門に入らせるきっかけとなった。

法然は「専修念仏」以外の宗教をすべて否定した。その結果として旧仏教からの反発は強くなり、承元(1207)年、法然以下10余名が死罪・流罪となった。連座して流された親鸞は、自ら「愚禿(ぐとく)親鸞」と名のり、越後で非僧非俗の生活を送った。5年後、赦免されたのちには長く関東にあって布教活動を行い、京都に帰ってからは、90歳で亡くなるまで主に著作を通して伝道につとめた。

Great Books 48 歎異抄(たんにしょう)

「歎異抄」は、序に「先師の口伝の真信に異なることを歎き、後学相続の疑惑あることを思ふ」とあるように、文字通り、先師(親鸞)の教えとは異なった説が流布していることを歎いた書物である。親鸞の教えを直接受けた常陸河和田の唯円(ゆいゑん)の著とされ、親鸞没後20年ごろ成立した。

序と結びの文をもった18条の短文で構成され、前半10条は親鸞の語録であり、後半8条では、師説に背いた異端な考えを唯円みづからが批判している。蓮如(れんにょ)による奥書には、「無宿善の機においては、左右なく、これを許すべからざるものなり」と記され、明治期の真宗改革運動によって世に出るまでは、「歎異抄」は一種の禁書としての扱いを受けた。

親鸞の主著には「教行信証」等があるが、「歎異抄」には彼の思想が如実に表れている。親鸞の信仰は、弥陀の本願をたよって念仏する以外往生の道はないという絶対他力の思想である。彼は「たとい、法然上人にすかされまひらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさふらぶ(歎異抄)」と言い切って、師である法然の絶対他力の浄土思想をさらに発展させた。

法然の、悪人でも専修念仏(念仏以外の行をまじえず、ひたすら念仏をとる)によって成仏できるという考えは、親鸞においては、弥陀の本願を信ずることをさらに徹底することで、逆に悪人だからこそ成仏できるという思想に深化した。煩惱具足の自覚者を悪人としてとらえたときに弥陀の本願にふさわしい人になるとした、この「歎異抄」第3条 **悪人正機説(あくにんしょうきせつ)**は、親鸞の信仰の核心を最もよく示していると言えるだろう。

Key Word 悪人正機説

善人なほもて往生おうじょうをとぐ、いはんや悪人をや。しかるを世のひとつねにいはいく、悪人なほ往生す、いかにいはんや善人をやと。この条、一旦そのいはれあるに似たれども、本願ほんがん他力たうりきの意趣にそむけり。そのゆゑは、自力じりき作善さぜんのひとは、ひとへに他力をたのむころかけたるあひだ、弥陀の本願にあらず。しかれども、自力のころをひるがへして、他力をたのみたてまつれば、真実しんじつ報土ほうどの往生をとぐるなり。煩惱ぼんのう具足ぐそくのわれらは、いづれの行にても生死しやうじをはなることあるべからざるを、あはれみたまひて願をおこしたまふ本意、悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる悪人、もつとも往生しやういんの正せい因いんなり。よつて善人だにこそ往生すれ、まして悪人はと、仰せ候おほ そうらひき。

(「歎異抄」第3条)

(現代語訳)

「善人でさえも浄土に生まれることができる。ましてや悪人が浄土に生まれることができるのは明白である。ところが、世間の人はずねに『悪人も極楽浄土に生れることができる、どうして善人が往生できないことがあるか』と言う。この考えは、一応理由があるように見えるけれども、弥陀の本願を救いとたのむ他力の考えにそむいている。その理由は、自分の力で善行を積むことができる人は、ひたすらに他力にたのむという心が欠けているため、弥陀の本願の対象ではないからである。けれども自分をたのむ心をひるがえして、弥陀の本願をおたのみ申し上げれば、真実の浄土に往生することができるのである。煩惱すべてをそなえている我々は、どんな修行をしても生死の迷いから離れることができない。それをあわれみなさって願を立てられた弥陀の本意は、悪人を仏にすることであるので、他力をたてまつる悪人は、もっとも往生するにふさわしい因を身につけた人なのである。それゆえ、善人ですら往生するのだから、ましてや悪人は(往生できないはずはない)。」と(師は)おっしゃられた。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 歎異抄(講談社学術文庫) / 梅原猛(全訳注)
講談社 2000年刊 330p <188.74/13> 資料番号 21301304
- 📖 歎異抄(たんにしょう)論註 / 佐藤正英(著)
青土社 1992年刊 757, 13p <188.74BB/6> 資料番号 20544599
- 📖 観賞歎異抄 / 五来重(著)
東方出版 1991年刊 180p <188.74Z/1> 資料番号 20345450
- 📖 歎異抄(岩波文庫ワイド版) / 金子大栄(校注)
岩波書店 1991年刊 94p <188.74Z/2> 資料番号 20344768
- 📖 歎異抄全講読 / 安良岡康作(著)
大蔵出版 1990年刊 628p <188.74AA/3> 資料番号 20418620
- 📖 歎異抄(新潮日本古典集成) / 伊藤博之(校注)
新潮社 1981年刊 325p <918J/16/50> 資料番号 12041406

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 イエスと親鸞(講談社選書メチエ) / 八木雄二(著)
講談社 2002年刊 235p <192.8LL/114> 資料番号 21502497
- 📖 歎異抄を読む(講談社学術文庫) / 早島鏡正(著)
講談社 1992年刊 286p <188.74/5> 資料番号 20504460
- 📖 歎異抄事典 / 谷川理宣(ほか編)
柏書房 1992年刊 238p <188.74/4> 常置(相談室) 資料番号 20452678
- 📖 親鸞の世界 / 金子大栄(著)
徳間書店 1972年刊 221p <188.7C/56> 資料番号 10285393
- 📖 日本の名著6 親鸞 / 石田瑞磨(編)
中央公論社 1972年刊 494p <081.6/34/6> 資料番号 12785028
- 📖 日本思想大系11 親鸞 / 星野元豊(ほか校注)
岩波書店 1971年刊 592p <081.6/28/11> 資料番号 10149904
- 📖 日本の思想3 親鸞集 / 増谷文雄(著)
筑摩書房 1968年刊 401p <121/45/3> 資料番号 10193753
- 📖 日本の仏教8 悪人正機の教え / 早島鏡正(著)
筑摩書房 1967年刊 277p <180.8/103/8> 資料番号 13458625